

「知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究」

令和8年5月28日
特別支援教育WG
参考資料5



研究の背景

- ・ 知的障害教育における資質・能力の育成の状況について適切に把握し、指導の改善を図ること
- ・ これまでの実践上の蓄積を基盤に、現在求められている単元づくりや学習評価の方法を確立すること
- ・ 一人一人の障害の状態に応じた工夫を行う必要があり、生活や社会参加のために育成を目指す力を考え、教育活動を進めること
- ・ 学習評価の方法を単に標準化するのではなく、それぞれの学校や子供の実態に応じた方法を探求すること



研究の目的

- ・ 学習指導要領 (H29.30告示) に示された各教科等の目標・内容との関連性を踏まえた学習評価の方法を整理する。
- ・ 指導内容の妥当性を高めるための学習評価の方法と留意点を明らかにする。
- ・ 知的障害のある児童生徒に対する教科別の指導及び各教科等を合わせた指導における学習評価の方法について、工夫点や課題点を示す。

研究の進め方



文献調査



単元作成プロセスの検討



研究協力校8校の事例研究

得られた結果の整理



評価の対象の明確化

学習評価の対象は、単元で扱う各教科等の目標・内容である。題材や活動を通して、どの教科等の目標・内容を扱うのかを明確にする。



評価規準設定の工夫

学習集団の実態差や取り扱う内容の段階に応じて、共通の評価規準、段階別評価規準、個別の指導目標を組み合わせる。



指導の形態と学習評価

教科別の指導と各教科等を合わせた指導のいずれにおいても、単元で扱う各教科等の目標・内容に基づいて、児童生徒の学習状況を把握する。



設定の手順・留意点の違い

教科別の指導と各教科等を合わせた指導では、単元目標や評価規準を設定する際に確認すべき内容や順序が異なる。



知的障害教育における単元づくりと学習評価では、いずれの指導の形態においても各教科等の目標・内容に基づいて学習状況を把握しつつ、指導の形態や児童生徒の実態に応じて単元目標・評価規準の設定方法を工夫し、評価結果を指導改善につなげることが重要である。